

やまがわ

YANAGAWA 2014.

No.211

1月1日

今号の内容

- ◆市長・議長 年頭のあいさつ 2～3
- ◆おもてなし座談会 4～9
- ◆感染症予防に十分な対策を ほか 10～11
- ◆中山で防災組織強化の研修会 ほか 12～13
- ◆市民のひろば (14-15) ◆川柳 (15) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き (16-17) ◆情報わいど (18-23) ◆がんばったね・ぬくもり (23-24) ◆柳川にこの人あり 上津原藍さん (24) ◆もちふみデビュー (25) ◆保健ガイド (26-27) ◆新市史抄片 (28)



手作りしめ縄で 良い年迎えるゾ

大和小学校の「やまとひろば」で12月14日、参加した児童が同校体育館でしめ縄を作りました。「やまとひろば」は、週末の休日を利用して、児童が楽しみながらみそ作りやイモ掘りなどに挑戦する場。児童は、「来年も良い年でありますように」と願いを込めながらわらを編みました。

柳川の神馬像

市史抄片

106

問い合わせ
市生涯学習課市史編さん係 (☎72・1275)



玉垂神社 (百町) の神馬像

かつて太宰府天満宮本殿の西(向かって左側)の一角に小さな囲いがあり、白馬が繋がれていた。本殿の脇を抜けて裏の梅林に向かうそこに小さな案内板があり、「神馬」と書かれていた。神が乗る乗り物として馬があり、実際に馬が奉納されていたのである。近年そうした馬の姿を見ることが少なくなり、現在はその馬が次第に絵に描いた「馬」になり、さまざまな画題の「絵馬」となつて

いる。神様に祈願することが日常になり、「奉納」「奉獻」「奉願」などの言葉と共に、病気やけがからの回復、家内安全や長寿、進学や就職の成就など、さまざまな祈りがそこに込められていった。また少し古い絵馬であれば、時代を表すような「お伊勢参り」や「戦勝祈願」といった言葉もしばしば見ることができ。文化財の調査で神社を訪れたとき、こうした絵馬をしばしば見ると美術の調査では、その絵馬の主題はもちろんであるが、絵馬を描いた人物(絵師)、奉納された年月日などが気になるところである。例えば江戸時代の終わりごろ、福岡筑前の絵馬にしばしばその名を見る齋藤秋圃の画歴をたどる上でそれは、絵師の画歴を知る大変重要な作品となる。柳川市史の調査においても風浪神社や日吉神社(磯島)には10点ばかりの絵馬を見ることができ、玉垂神社(百町)には江戸時代の制作

と思われる「神馬像」が残されていた。像は体高25センチメートル、体長41センチメートル、体幅9センチメートルばかりの木造で、おそらく栗毛の馬をイメージしたのであろう。表面は薄茶色の彩色に覆われている。また、馬のたてがみと尻尾には黒色の毛が植えられ、蹄には金色の彩色も施されていた。こうした実際の馬の形をした像の奉納は、柳川市内でもまれであり、県内の調査においてもほとんど見ることがない。上述したように、絵馬は生きた馬の奉納から描かれた馬の奉納に変わってきたものであるが、本像はその描かれる馬に変化する過程のものと思われる。今年の干支は甲午。年賀状にはさまざまな馬の姿が描かれている。そうした描かれた馬だけではなく、郷土に残された貴重な馬の姿もご覧いただきたい。

市史専門研究員 橋富博喜

編集後記

●4月から広報担当になり、あつという間の9か月。1月15日号の作成を、12月中にほぼ終わっておかなければならず12月は超多忙だった。でもこの仕事、いろいろな人と出会え、話すことができるのが一番の楽しみ。今年はどうな人と出会うのか。本年もよろしくお願ひします。(英二)

●ウインタースポーツが真っ盛り。遅く帰宅しても深夜のスポーツ番組を欠かさずチェックしている。米国ではアメフトやバスケット、欧州ではサッカーだが、今年はなんといつてもソチ五輪。スキーやジャンプやノルディック複合、フィギュアスケートなど、日本選手の活躍に期待したい。(賢治)

●普段コンタクトの私だが休日にはメガネで行動する。最近急激に視力が落ちたので自分のメガネ姿は新鮮だ。先日メガネをかけて行った取材先に妹の同級生がいた。「小学校から全然変わっていない」と私の顔を見て彼女は終始笑顔。他人にとって私のメガネ姿は新鮮ではないようだ。(和久)

人のうごき

平成25年11月末現在

- 人口 70,299人 (前月比 -53)
- 男 33,297人 (-23)
- 女 37,002人 (-30)
- 出生 36人、死亡 66人
- 転入 109人、転出 132人
- 世帯数 24,942世帯 (9)